



# 効率化処理を実行するボリューム効率化ポリシーを作成します。

## ONTAP 9

NetApp  
December 20, 2024

# 目次

効率化処理を実行するボリューム効率化ポリシーを作成します。 . . . . .	1
ボリューム効率化ポリシーを作成します。 . . . . .	1
ボリューム効率化ポリシーをボリュームに割り当てる . . . . .	1
ボリューム効率化ポリシーを変更します。 . . . . .	2
ボリューム効率化ポリシーを表示します。 . . . . .	2
ボリュームからボリューム効率化ポリシーの関連付けを解除する . . . . .	3
ボリューム効率化ポリシーを削除します。 . . . . .	3

# 効率化処理を実行するボリューム効率化ポリシーを作成します。

## ボリューム効率化ポリシーを作成します。

コマンドを使用して、ボリュームに対して重複排除、またはデータ圧縮とそれに続く重複排除を特定の期間実行するボリューム効率化ポリシーを作成し、ジョブのスケジュールを指定できます `volume efficiency policy create`。

開始する前に

コマンドを使用して、cronスケジュールを作成しておく必要があります `job schedule cron create`。cronスケジュールの管理の詳細については、を参照して["システムアドミニストレーションリファレンス"](#)ください。

タスクの内容

事前定義されたデフォルトのロールを持つSVM管理者は、重複排除ポリシーを管理できません。ただし、クラスタ管理者は、カスタマイズした任意のロールを使用して、SVM管理者に割り当てられているPrivilegesを変更できます。SVM管理者の権限の詳細については、を参照してください["カンリシヤニンシヨウトRBAC"](#)。



重複排除またはデータ圧縮処理は、スケジュールした時間に実行するか、特定の期間を指定したスケジュールを作成するか、しきい値を指定して実行できます。しきい値は、新しいデータがしきい値を超えてから重複排除またはデータ圧縮処理をトリガーします。このしきい値は、ボリューム内で使用されている合計ブロック数に対する割合です。たとえば、ボリュームで使用されているブロックの合計数が50%のときにボリュームのしきい値を20%に設定した場合、ボリュームに書き込まれた新しいデータが10%（使用されているブロックの20%）に達すると、データの重複排除またはデータ圧縮が自動的に実行されます。必要に応じて、コマンド出力から使用されているブロックの総数を確認できます `df`。

手順

1. コマンドを使用し ``volume efficiency policy create`` て、ボリューム効率化ポリシーを作成します。

例

次のコマンドは、効率化処理を毎日実行するpol1という名前のボリューム効率化ポリシーを作成します。

```
volume efficiency policy create -vserver vs1 -policy pol1 -schedule daily
```

次のコマンドは、しきい値が20%に達したときに効率化処理を実行するpol2という名前のボリューム効率化ポリシーを作成します。

```
volume efficiency policy create -vserver vs1 -policy pol2 -type threshold -start -threshold-percent 20%
```

## ボリューム効率化ポリシーをボリュームに割り当てる

```
`volume efficiency
```

modify`コマンドを使用して、ボリュームに効率化ポリシーを割り当て、重複排除またはデータ圧縮処理を実行できます。

開始する前に

ボリュームに割り当てる前に、必ずボリュームを割り当てるようにし"[ボリューム効率化ポリシーを作成する](#)"  
てください。

タスクの内容

効率化ポリシーが SnapVault セカンダリボリュームに割り当てられている場合は、ボリューム効率化処理の実行時に考慮される属性はボリューム効率化優先度のみです。ジョブスケジュールは無視され、重複排除処理はSnapVaultセカンダリボリュームに差分更新が行われたときに実行されます。

ステップ

1. コマンドを使用し `volume efficiency modify` で、ボリュームにポリシーを割り当てます。

例

次のコマンドは、という名前のボリューム効率化ポリシーをボリュームに `VolA` 割り当て `new\_policy` ます。

```
volume efficiency modify -vserver vs1 -volume VolA -policy new_policy
```

## ボリューム効率化ポリシーを変更します。

コマンドを使用して、ボリューム効率化ポリシーを変更して別の期間で重複排除やデータ圧縮を実行したり、ジョブスケジュールを変更したりできます volume efficiency policy modify。

手順

1. コマンドを使用し `volume efficiency policy modify` で、ボリューム効率化ポリシーを変更します。

例

次のコマンドは、policy1という名前のボリューム効率化ポリシーを変更して、1時間ごとに実行するようにします。

```
volume efficiency policy modify -vserver vs1 -policy policy1 -schedule hourly
```

次のコマンドは、pol2という名前のボリューム効率化ポリシーをしきい値30%に変更します。

```
volume efficiency policy modify -vserver vs1 -policy pol1 -type threshold -start -threshold-percent 30%
```

## ボリューム効率化ポリシーを表示します。

名前、スケジュール、期間、説明を含むボリューム効率化ポリシーを表示できます。

タスクの内容

コマンドは、`volume efficiency policy show` ボリューム効率化ポリシーを表示します。クラスタ内でコマンドを実行した場合、クラスタを対象としたポリシーは表示されません。ただし、SVMコンテキストでは、クラスタを対象としたポリシーを表示できます。

#### 手順

1. コマンドを使用して `volume efficiency policy show`、ボリューム効率化ポリシーに関する情報を表示します。

出力される内容は指定するパラメータによって異なります。詳細ビューおよびその他のパラメータの表示の詳細については、このコマンドのマニュアルページを参照してください。

#### 例

次のコマンドを実行すると、SVM vs1用に作成されたポリシーに関する情報が表示されます。 `volume efficiency policy show -vserver vs1`

次のコマンドは、期間が10時間に設定されているポリシーを表示します。 `volume efficiency policy show -duration 10`

## ボリュームからボリューム効率化ポリシーの関連付けを解除する

ボリュームからボリューム効率化ポリシーの割り当てを解除して、そのボリュームに対してスケジュールされている以降の重複排除またはデータ圧縮処理を中止できます。ボリューム効率化ポリシーの関連付けを解除したら、手動でトリガーする必要があります。

#### ステップ

1. コマンドを使用し `volume efficiency modify` で、ボリュームからボリューム効率化ポリシーの関連付けを解除します。

#### 例

次のコマンドは、ボリュームVolAからボリューム効率化ポリシーの関連付けを解除します。 `volume efficiency modify -vserver vs1 -volume VolA -policy -`

## ボリューム効率化ポリシーを削除します。

コマンドを使用して、ボリューム効率化ポリシーを削除できます `volume efficiency policy delete`。

#### 必要なもの

削除するポリシーが関連付けられているボリュームがないことを確認しておく必要があります。



*inline-only* および *\_default\_predefined* 効率化ポリシーは削除できません。

#### ステップ

1. コマンドを使用し `volume efficiency policy delete` で、ボリューム効率化ポリシーを削除します。

例

次のコマンドは、policy1という名前のボリューム効率化ポリシーを削除します。 volume efficiency  
policy delete -vserver vs1 -policy policy1

## 著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。